

令和4年度 学校評価(自己評価・学校関係者評価)

赤穂市立有年中学校

1 本年度の学校経営方針

- ◆学校教育目標 「志」高く、学ぶ意欲と思いやりの心が充ちる生徒の育成
～夢の実現に向かって、明るく、やさしく、正々堂々、行動しよう～
- ◆基本方針
 - (1) 「笑顔」・「あいさつ」・「やさしさ」があふれる生徒の育成に努める。
 - (2) 協同して考えを深める学びを構築し、向上心と豊かな人間性を養う。
 - (3) 「夢」と「志」を持ち、よりよい生き方を求めて挑戦する「勇気」と「行動力」を培う。
 - (4) 有年中学校生徒であることに「誇り」を持ち、郷土を愛する心を育む、魅力ある学校づくりに努める。

2 本年度の学校努力目標

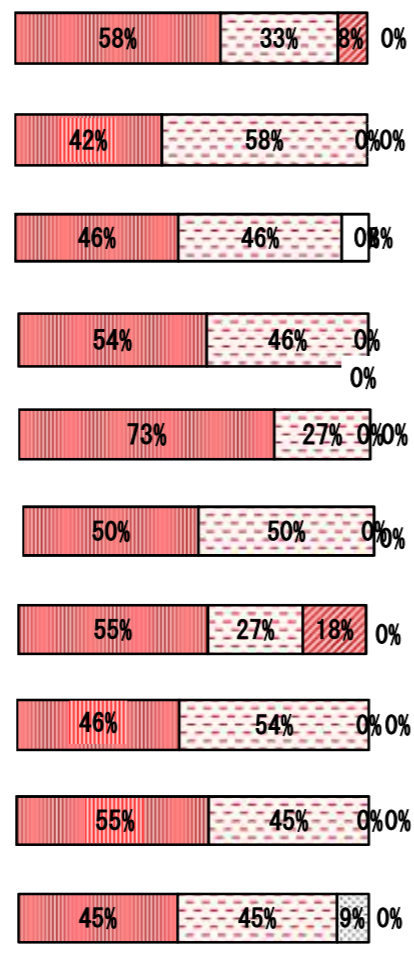
- (1) 安心・安全な有年中に
- (2) 学習が充実した有年中に
- (3) 心の通い合う有年中に
- (4) 地域に根ざした有年中に

3 本年度のめざす教師像

- (1) 人権感覚と人権意識を高め、豊かな心と命を大切にす教師
- (2) 絶えず研鑽に励み、すぐれた指導力を身につけた教師
- (3) 生徒理解に努め、生徒に寄り添うことのできる教師
- (4) 家庭・地域とともに歩むことのできる教師

4 自己評価結果 (A～D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

NO	評価項目	A	B	C	D
1	災害が起きた時を想定し、避難方法を具体的に話しをしている。	7	4	1	0
2	生徒が安心して生活できる居場所づくりを進めている。	5	7	0	0
3	生徒の気持ちに寄り添いながら話を聴くことを大事にしている。	6	6	1	0
4	生徒がいじめや暴力のない学校生活を送れるように取り組んでいる。	7	6	0	0
5	生徒にわかりやすい授業ができるよう工夫している。	8	3	0	0
6	授業の改善のため工夫を続けている。	5	5	0	0
7	生徒の発言を大切にし、質問しやすい授業を心がけている。	6	3	2	0
8	生徒の話しをよく聞いて、考え方や意見を認めてから指導することを心がけている。	6	7	0	0
9	進路について考える機会を提供している。	6	5	0	0
10	思いやりの心や命を大切にする学習を機会あるごとに行っている。	5	5	1	0



総合的な学校関係者評価

- コロナ禍になり3年。当初1年生だった生徒が卒業生となり、これまでとは全然違った3年間を過ごさなければならなかったことは、とても残念です。その中でも先生方が工夫され、コロナ禍だからできないではなく、できる事を考えて生徒にいろいろな経験をさせていただいていることに感謝しています。
- 「笑顔」「あいさつ」「やさしさ」の育成には、トライやる・ウィークの活動が合っていると思うので、これからも続けて欲しいと思います。
- 有年というふるさとが、人生の土台として、地域との交流を大切に宛言って欲しいです。
- 日頃のあいさつの励行などを通して、地域の人々にとっても有年中生の態度が好意的に受け止められている。こうした雰囲気の中で見守りの体制も自然と広がりを見せ、地域の穏やかな環境を生み出していると考えられる。

<調査人数> 13

学校関係者評価

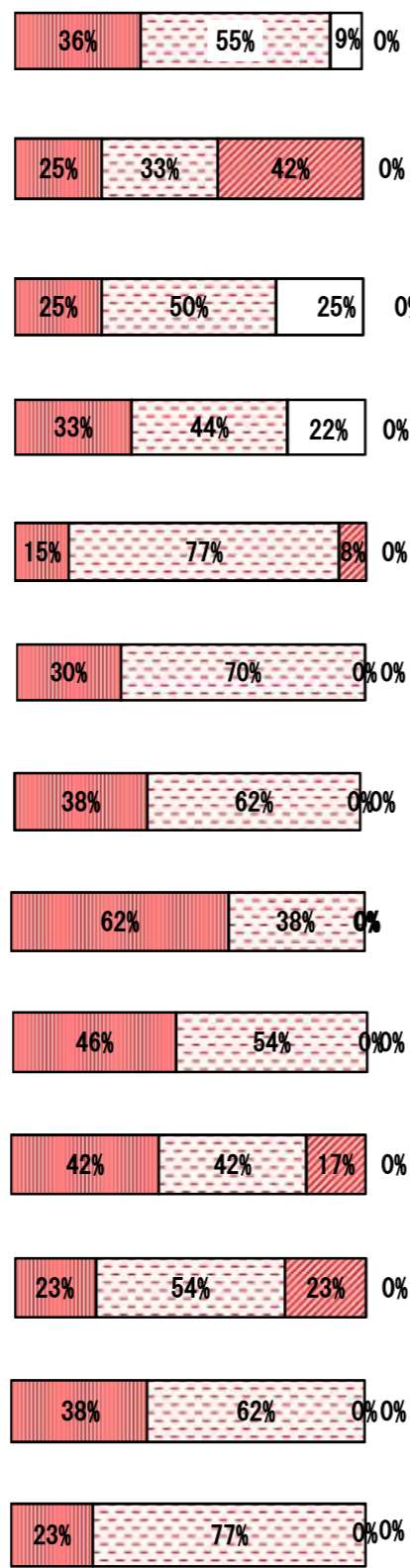
◎適切である ○ほぼ適切である △あまり適切でない ×適切でない

分析と改善の方策	自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度の具体的な改善方法
(1) 安心・安全な有年中に 【成果】 ・避難経路の掲示、避難訓練を定期的の実施し避難方法を理解している。 ・いじめや暴力に対し、教職員も意識を高く持っており、そのことが生徒の安心感につながっている。 【課題】 ・おおむね安心して学校生活を行っているが、困ったときに教師に相談しにくい生徒が少数ではあるがいる。 【改善の方策】 ・教育相談習慣を定期的に持ち、生徒の心情に寄り添い指導や助言を行う。 ・昼休みや放課後など教師も教室で生徒と会話(何気ない話し)ができる心と時間のゆとりを作る。	◎	○	○ 「いじめ」や「暴力」に対して絶対にそれらを許さないという信念の下、きめ細かい取組をされており、今後もその姿勢で指導を継続していただきたい。 ○ 防災という点では、近年の状況もあり関心が高く、生徒の意識も指導の成果が反映されている。 ○ 校区を貫通する国道2号線の危険性(373号線を含めて)についての注意喚起をお願いしたい。 ○ 自転車の乗り方、歩道の進み方等についてもご指導を継続して欲しい。 ○ 学校の中での出来事を話しやすい環境を家庭で作る。 ○ 悩み事など何でも相談できる具体的なしくみを更に確立していく。
(2) 学習が充実した有年中に 【成果】 ・授業中、熱心に取り組んでる。 ・ICT機器の活用や授業形態の工夫等が、授業のわかりやすさにつながった。 ・小規模校の特性を生かし、きめ細かい個に応じた指導が学力の定着につながっている。 【課題】 ・授業が分からないときに、質問しにくい生徒がいる。 ・家庭と連携し進路指導・キャリア教育を進める必要がある。 ・委員会や係活動、日直など仕事が多く自分のことを振り返る時間が十分取れていない。 【改善の方策】 ・生徒同士の学び合いの時間を設定し、質問しにくい生徒にとっても学びやすい環境を作る。 ・授業中に確認や、質問タイムを設ける。 ・キャリア教育の中で、保護者からの意見をもらう所を作り、将来について共に考えられるよう取り組む。 ・時間的なゆとりをつくり、振り返りができる機会を増やす。 ・部活動や体育の授業を通して、運動による効果、充実感を味わわせる。	○	○	○ IT機器への対応は個人差があると思われる。各人の得手不得手を把握し指導をお願いしたい。 ○ 時代は変われども、問題に集中して取り組む力というのは重要である。読書等綿々と続けられてきた活動の大切さも引き続きご指導いただきたい。 ○ 有年中出身者を招聘し、生徒に体験学習等を披露する機会が持てれば、「生きたキャリア教育」になるのではないかと期待する。(研究、技術等分野、年齢を問わず活躍されている方は多くおられる。) ○ ICTの活用が始まったところなので、授業だけでなく家庭学習などでこれから更に活用できるようにして欲しい。

●新たな課題と方策 ◆昨年度からの継続課題と方策

◎適切である ○ほぼ適切である △あまり適切でない ×適切でない

NO	評価項目	A	B	C	D
11	振り返りの機会を計画的に行っている。	4	6	1	0
12	運動の大切さを理解させ、体を動かすように工夫している。	3	4	5	0
13	部活動で、連帯感、成功感を味わせ、興味を持たしている。	2	4	2	0
14	部活動では「技」だけでなく、心の成長を大切にしている指導を行っている。	3	4	2	0
15	生徒は毎日喜んで登校している。	2	10	1	0
16	楽しいクラスづくりに取り組んでいる。	3	7	0	0
17	友の大切さ、ありがたさ等をよく話している。	5	8	0	0
18	努力することの大切さを指導している。	8	5	0	0
19	間違っただ行動に対して、わかりやすく指導している。	6	7	0	0
20	学校行事や生徒会活動等での体験活動を多く経験させ、豊かな心を醸成している。	5	5	2	0
21	生徒にはわかりやすく、ていねいな言葉で接している。	3	7	3	0
22	自他や家族を大切に、楽しく生きることを指導している。	5	8	0	0
23	習慣の意味や重要性について、生徒に啓発している。	3	10	0	0



分析と改善の方策

(3) 心の通い合う有年中に

【成果】

- 「相談できる友だちがいる」は文言変更前の同内容と比較し高くなった。
- 多くの生徒がたのしく学級で過ごしている。
- 清掃活動、整列した駐輪等、周りの人のことを考え行動できている。

【課題】

- 少人数であるが、学級では楽しく生活できているが学校に行くのが楽しいとあまり思っていない生徒がいる。

【改善の方策】

- 少人数グループ学習を活用し、他者の考えを素直に受け入れたり、学び合い、認めあう雰囲気作りを行う。
- 異学年集団でを活用し、自己有用感や仲間意識を高められる体験活動や行事の計画を進めていく。
- 自他尊重のコミュニケーション（アサーショントレーニング）の学習を行い活用能力を身につける。

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度の具体的な改善方法
◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> 中学生という時期に生徒一人ひとりが成長の過程で課題を抱きつつ生活している中で、外面的な部分、内面的な部分で、それぞれの姿を見せていることに留意していただきたい。 保育所、幼稚園、小学校さらには高齢者大学といった普段の生活よりも広がった関わりの中で、本来の姿を示すことができる場合もある。地域でのふれあい行事等、家族以外の人々との関わりを持つことも更に続けて頂きたい。 思いやりや優しさを持って、さらに人間関係を良好にしていけるようにご指導下さい。 少人数の中で、育っている中で、先生も子ども同士も個人の性格を理解して受け入れてくれているのが卒業後、大人数の世界に入ると、今までと違う環境に戸惑ってしまう子がいる。その中でも自信を持って生きていけるよう「自己肯定感」を高められるよう接して頂きたいです。

(4) 地域・家庭に根ざした有年中に

【成果】

- 6校園所で取り組んでいる「早寝・早起き・朝ご飯」を実践し、ほぼすべての生徒が朝ご飯を取り、余裕を持って登校できた。
- 学校、家庭、地域であいさつをしっかり行っている。

【課題】

- コロナ禍の影響で多くの地域行事、ふれあい行事が中止となり、生徒が地域で活躍する場が少なくなっている。
- 地域の方々に学校にきていただける機会も少なくなった。
- 学校や生活のことを家庭で話す機会が少ない生徒が若干名いる。

【改善の方策】

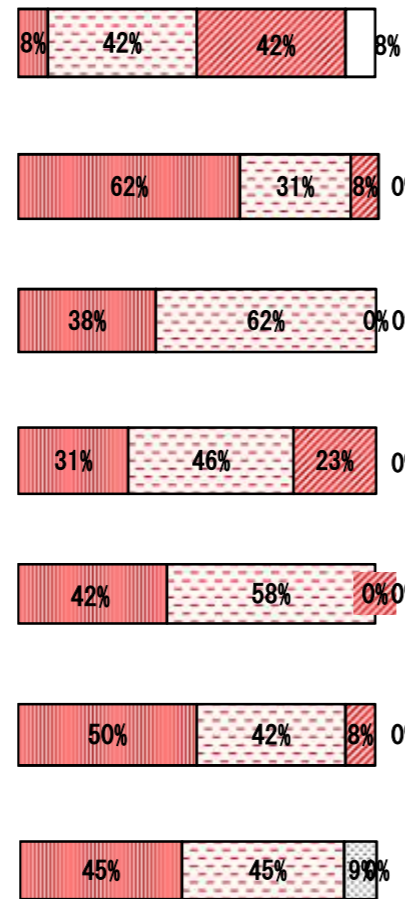
- 地域行事に参加し、活躍できる機会を確保し地域に貢献できる生徒の育成につなげる。
- 生徒や学校の様子を見ていただける機会を定期的にする。
- 通信、電話連絡、家庭訪問を通して、生徒や学校の様子を伝える。
- 「正々堂精神」「ノーチャイム精神」等有年中学校の伝統について考える機会をもうける。
- 学校の様子などを話すきっかけとなるように、学校での様子を家庭に伝える。

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度の具体的な改善方法
○	◎	<ul style="list-style-type: none"> 「正々堂精神」「ノーチャイム精神」の有年中の伝統を大切にしたい。 自転車の運転等に対し、登下校時だけでなく、休みの日も有年中生だと誇りを持って生活して欲しい。 新型コロナウイルス対策もどんどん変わってきているので行事の再開も無理のない程度に行ければと思います。 「早寝・早起き・朝ご飯」の定着は各校園での継続した取組の成果である。有年中的状況がある意味での到達点(今後も継続していくものであるが)としてとらえ、他の活動も同様の成果が見られるよう工夫していく。 「有年の歴史」を学ぶ機会を検討頂きたい。

●新たな課題と方策 ◆昨年度からの継続課題と方策

◎適切である ○ほぼ適切である △あまり適切でない ×適切でない

NO	評価項目	A	B	C	D
24	地域の行事やPTA活動に積極的に参加し、保護者地域との関係作りを心がけている。	1	5	5	1
		8%	42%	42%	8%
25	自分からあいさつすることを心がけている。	8	4	1	0
		62%	31%	8%	0%
26	社会規範を育てるように指導している。(正々堂精神)	5	8	0	0
		38%	62%	0%	0%
27	主体的に行動できる生徒の育成を考えた指導をしている。	4	6	3	0
		31%	46%	23%	0%
28	自他の考えを認め、尊重する学校づくりに努めている。	5	7	0	0
		42%	58%	0%	0%
29	清掃指導、環境整備をよくしている。	6	5	1	0
		50%	42%	8%	0%
30	自転車を整然と駐輪ができています。(徒歩通学は除く)	5	5	1	0
		45%	45%	9%	0%



分析と改善の方策

(5) 全体を通して

【成果】

- ・感染防止対策を行い、工夫し教育活動を実施した。
- ・規模を縮小したり、延期したりしながら、ほぼ例年と同じ学校行事を実施することができた。
- ・長年にわたり取り組んでいる「正々堂精神」「ノーチャイム精神」等の学校の伝統を意識して生活できている。

【課題】

- ・生徒アンケートでは自ら行動していると回答しているが、保護者アンケートでは自主的に行動できていないと回答する保護者が若干名いる。

【改善の方策】

- ・自主性を育てるために、支援が必要なときに支援できるよう準備しながら、生徒の学びを見守り助言を与え、主体的に学びを深められるよう体制を作る。
- ・地域で活動する場面をもうけ、多くの人とかかわり、様々な経験を通して自信や地域を大切に思う気持ちを育てる事で、自主的に取り組む姿勢につなげる。

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度の具体的な改善方法
◎	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ この数年間の「コロナ禍」の状況の下、工夫して指導に当たって頂いた先生方、生徒のみならず、家族のかたがたのご尽力には本当に頭が下がる思いである。困難な状況を乗り越えた(まだ油断はできないが)自身を今後に生かして頂きたいと思う。 ○ 有年中の生徒の気持ちの良いあいさつに心なぐさめられるという声は多く聞かれる。そうした一人ひとりの心がけが地域での「見守り」にも結びついていると思われる。今後も有年中の伝統として続いて欲しいと思う。 ○ 少人数ならではの学校生活の難しい中で、様々な工夫をしての指導を継続して欲しい。 ○ 正々堂精神を始め、これから生きていく中で、大切なことを継続して有年中で学ばせて頂きたい。 ○ これからも有年中の伝統を引き継いで行けるように指導を進める。 ○ 学力だけでなく、社会に出たときに必要な基本姿勢を学校だけでなく、家庭地域と連携しながら身に付ける。

自己評価における特記事項

- ・学校としても、生徒・保護者としても、概ね良好な状態だと考えられる。
- ・コロナ後は子どもたちに様々な体験をさせたい。福祉体験学習は、全校生で毎年行っていたので再開させて欲しい。
- ・今回のアンケート結果を見て考えたことを、今後の教育活動に活かしていけるよう改善していく。
- ・コロナ禍で、多くの行事が中止、縮小となりPTAや地域の行事に参加できていない部分がある。今後、地域の行事が徐々に再開されるので、地域、家庭、学校が生徒を育むことができるよう連携を深めていく。
- ・生徒の回答と保護者の回答に若干ズレがある項目がある。学校や生活のことをあまり話していない生徒もいるので、家族とのコミュニケーションを大切にしたい。

評価項目以外の来年度の課題や具体的な改善方法

- 先生方だけでは大変なので、家庭や地域の人も巻き込んで、三位一体で育成を図っていくことが大切。
- アンケートの評価はおおむね高評価ですが、少人数ですが、満足していない生徒もいる。そこにきちんと目を向けて、対策して頂きたい。
- ボランティア活動や各種環境エコ活動への積極的取組の推進。
- 具体的に数値目標をたて、改善対策や方策を計画し実行する。